

本年度は全国医療施設から123項目にわたる調査個人票を収集し解析した。18歳以下で発症した若年型（インスリン依存型）糖尿病で昭和40年以降に診療した症例の調査個人票1,572例分が254施設より寄せられた。

以下はその解析結果のうち本年度において完了したものの要旨である。

- ① 調査対象の地域分布：表-1に示した。
- ② 出生年度別分布とその男女比：表-2に示した。男女比はどの出生年度群においても1.27～1.84の間で女性が多かった。
- ③ 診断時年齢分布とその男女比：表-3に示した。ほぼ発病年齢に相応する診断年齢別にみても男女比はどの年齢群においても1.21～1.96の間で女性が多かった。診断年齢分布は3～13歳の間でほぼ平坦となる分布型を示したが、とうぜんこれは真の発病年齢分布を表現していない。
- ④ 1962年以前に出生した症例に限定した診断年齢の男女別分布：表-4および図-1に示した。これが真の発病年齢分布を示す。分布曲線に男女差が存在するようにみえるが、男女で症例数が異なるので、累積百分比でしらべた。
- ⑤ 表-4の累積百分比による検討：表-5および図-2に示したように、7～14歳の間で累積曲線に男女差がみとめられた。女性のほうが年齢の若いほうに偏って発症する傾向がみとめられたが、男女差のみとめられる年齢層が思春期年齢に相当するため、あるいは女性の思春期が男性のそれより若い年齢で出現することに対応するのかもしれない。
- ⑥ 糖尿病家族歴：表-6に示した。陽性率30.8%は従来の報告にほぼ一致する。しかし若年型糖尿病に限定すると陽性率は4.0%といちじるしく低下し、成人型糖尿病に関する陽性率のほうが高かった。
- ⑦ 診断時における臨床像と年齢：表-7および図-3に示した。昏睡、ケトアシドーシス、ケトアシドーシスを伴わないもの、無症状でマス・スクリーニングあるいは選択的スクリーニングで発見されたものの4段階に大別すると、年齢の上昇とともに診断時の症状が軽快する傾向がみとめられた。特筆すべきは全体の9.2%、学齢以上の患児の10～26%が無症状のうちに発見されていることで、これは学校検尿の成果としてわが国の他に誇りうるところであろう。
- ⑧ 発症時における先行あるいは併行感染の年齢別頻度：表-8に示した。陽性率は全体として19.3%で、診断年齢の若いほど陽性率が高かった。
- ⑨ 発症時における先行あるいは併行感染の種類：表-9に示した。
- ⑩ 共存疾患：表-10に示した。
- ⑪ 共存疾患の特徴：表-11に示した。自己免疫性甲状腺疾患の共存率が2.10%で米国の約1/2であり、Addison病の共存例がないことが目立った。
- ⑫ 自己抗体出現率：表-12に示した。マイクロゾーム血球凝集抗体の陽性率は男子で9.9%、女子で21.3%、あわせて16.6%で高かった。膵島細胞抗体（ICA）の陽性率は10.3%と白人における報告値に比べて低く、膵島細胞膜抗体（ICSA）の陽性率は白人における報告値とほぼひとしかった。

⑬ 網膜症出現率（年齢、性との関係）：表-13に示した。男女いずれも年齢とともに増加し、ことに17歳以上で急増加を示した。

⑭ 網膜症出現率（診断年齢、罹病年数との関係）：表-14に示した。罹病年数が長くなるほど出現率が高くなるが、同一の罹病年数でみると、診断年齢が低いほど出現率が低かった。この事実は罹病年数のみならず、年齢も網膜症出現につよい影響をもっていることを示すものと考えられた。

⑮ 網膜症出現率（年齢、罹病年数との関係）：表-15に示した。年齢と罹病年数のいずれもが出現率に影響を与えるが、年齢のほうがよりつよい影響をもっていることがうかがわれた。

⑯ 腎症出現率（年齢、性との関係）：表-16に示した。男女いずれも年齢とともに出現率が増加したが、腎症出現は網膜症出現にかなりおくれる傾向がみとめられた。

⑰ 腎症出現率（年齢、罹病年数との関係）：表-17に示した。年齢と罹病年数のいずれもが出現率に影響を与えるが、年齢のほうがよりつよい影響をもっていることがうかがわれた。

⑱ 白内障出現率（年齢、性との関係）：表-18に示した。男女いずれも年齢とともに出現率が増加したが、腎症・網膜症に比べて低い年齢でも出現がみとめられた。

⑲ 白内障出現率（年齢、性との関係）：表-19に示した。年齢と罹病年数のいずれもが出現率に影響を与えているようにみえるが、実はほとんど年齢のみが影響を与えているにすぎないことがうかがわれた。

⑳ 糖尿病性神経症出現率（年齢、性との関係）：表-20に示した。男女いずれも年齢とともに出現率が増加した。

㉑ 糖尿病性神経症の症状：表-21に示した。

㉒ 死亡とその原因：表-22に示した。

㉓ 長期予後：表-23に示した。18歳以下で発症したインスリン依存型糖尿病の25～46歳の年齢における予後は身体的にも、社会生活の面でもいちじるしく制約されていることが明らかになった。

㉔ インスリン療法（毎日の注射回数）：表-24に示した。1日1回法が70%，2回法が28%を占めた。

㉕ インスリン療法（毎日使用するインスリン製剤の種類）：表-25に示した。1種類が74%，2種類が19%を占めた。

㉖ インスリン療法（性別、年齢別用量）：表-26に示した。男女いずれも年齢とともに増加し、20歳をすぎると減少した。用量の個人差がいちじるしく大きいことが明らかになった。

㉗ コントロール規準として用いられている指標：表-27に示した。血糖の home monitoring が全体の16.6%で実施されていることが判明した。

㉘ 月別発病状態：表-28に示した。

表-1 調査対象の地域分布

北海道	76例	中国	90例
東北	85	四国	87
関東甲信越	712	九州・沖縄	156
中部・北陸	141		
近畿	188	計	1,535

表-2 出生年度別分布とその男女比

出生年度	男	女例	計	女/男比
1951年以前	22例	35	57例	1.59
1952~1956	33	42	75	1.27
1957~1961	56	103	159	1.84
1962~1966	163	259	422	1.59
1967~1971	211	289	500	1.37
1972~1976	125	179	304	1.43
1977~1981	22	33	55	1.50
計	632	940	1,572	1.49

表-3 診断年齢分布とその男女比

診断年齢	男	女	計	女/男比
0~2歳	67例	88例	155例	1.31
3~5	143	173	316	1.21
6~8	122	200	322	1.64
9~11	125	245	370	1.96
12~14	120	156	276	1.30
15~18	56	74	100	1.32
計	633	936	1,569	1.48

表-4 1962年以前に出生したものに限定した診断年齢の男女別分布

診断年齢	男			女			計	診断年齢	男			女			計
	男	女	計	男	女	計			男	女	計				
0歳	0例	0例	0例	7歳	4例	10例	14例	14歳	14例	20例	34例				
1	2	1	3	8	4	11	15	15	17	19	36				
2	0	1	1	9	5	14	19	16	7	15	22				
3	2	4	6	10	9	14	23	17	9	14	23				
4	2	2	4	11	14	21	35	18	7	11	18				
5	2	5	7	12	11	23	34								
6	3	7	10	13	18	21	39	計	130	213	343				

表-5 表-4の累積百分比

診断年齢	男	女	計	診断年齢	男	女	計	診断年齢	男	女	計
0歳	0%	0%	0%	7歳	11.5%	14.1%	13.1%	14歳	69.3%	72.3%	71.1%
1	1.5	0.5	0.9	8	14.6	19.2	17.5	15	82.3	81.2	81.6
2	1.5	0.9	1.2	9	18.5	25.8	23.0	16	87.7	88.3	88.0
3	3.1	2.8	2.9	10	25.4	32.4	29.7	17	94.6	94.8	94.7
4	4.6	3.8	4.1	11	36.2	42.3	39.9	18	100.0	100.0	100.0
5	6.2	6.1	6.1	12	44.6	53.1	49.9				
6	8.5	9.4	9.3	13	58.5	62.9	61.2				

表-6 糖尿病家族歴

項目	(+)の症例/総症例	陽性率
糖尿病親族あり	480/1,560	30.8%
type-1の親族あり	62/1,560	4.0
type-2の親族あり	210/1,560	13.5
父が糖尿病	45/1,560	2.9
母が糖尿病	51/1,560	3.3
両親いずれかがtype-1糖尿病	6/1,560	0.4
同胞にtype-1糖尿病	27/1,560	1.7

表-7 診断時における臨床像と年齢

診断年齢	症例数	臨床病像			
		無症状(検尿)	ケトアシドーシス(-)	ケトアシドーシス	昏睡
0歳	20	0(0%)	5(25%)	6(30%)	9(45%)
1~2	127	0(0)	52(40.9)	43(33.9)	32(25.2)
3~4	215	1(0.5)	137(63.7)	47(21.9)	30(13.9)
5~6	215	16(7.5)	123(57.2)	48(22.3)	28(13.0)
7~8	210	23(10.9)	130(61.7)	39(18.6)	18(8.6)
9~10	229	25(10.9)	137(59.8)	46(20.1)	21(9.2)
11~12	243	30(12.3)	144(59.3)	45(18.5)	24(9.9)
13~14	169	25(14.8)	107(63.3)	26(15.4)	11(6.5)
15~16	75	12(16.0)	44(58.7)	16(21.3)	3(4.0)
17~18	42	11(26.2)	21(50.0)	10(23.8)	0(0)
計	1,545	143(9.2)	900(58.3)	326(21.1)	176(11.4)

表-8 発症時における先行あるいは併行感染の
年齢別頻度

診断年齢	総症例	認める症例	陽性率(%)
0～3歳	250例	72例	28.8%
4～7	407	92	22.6
8～11	442	71	16.1
12～15	314	42	13.4
16～18	77	10	13.0
計	1,490	287	19.3

表-9 発症時における先行あるいは併行感染の
種類(1,490例)

感染の種類	症例数
感冒	172例
流行性耳下腺炎	29
麻疹	18
水痘	16
風疹	16
手足口病	3
マイコプラズマ肺炎	2
その他	31

表-10 共存疾患(1,572例)

疾患名	男	女	計	疾患名	男	女	計
甲状腺疾患				先天性風疹症候群		3	3
甲状腺機能亢進症	4	10	14	先天性白内障	1	1	2
甲状腺機能低下症	1	2	3	Down症候群		3	3
リンパ球性甲状腺炎	4	12	16	Turner症候群		1	1
リウマチ様関節炎	1	1	2	Laurence-Moon-Biedl		2	2
悪性貧血	1		1	Bartter症候群	1		1
リウマチ熱	1	1	2	下垂体性小人症	2	2	4
アレルギー性紫斑病	1	1	2	Ig-A欠損症		1	1
急性腎炎	2	1	3	慢性肝炎	1	1	2
ネフローゼ症候群	1	1	2	無形成性貧血	1	1	2
気管支喘息	13	6	19	鉄欠乏性貧血		1	1
中枢神経系疾患				急性白血病		1	1
知能発達遅延	8	7	15	急性膵炎		1	1
脳性麻痺	4	5	9	先天性心疾患	3	1	4
てんかん	7	15	22	腸ポリープ症		1	1
微細脳損傷	1	2	3	腎性糖尿		1	1
聾		2	2	Alopecia totalis		1	1
視神経萎縮	3		3	皮膚白斑	2		2
Wolfram症候群	1		1				

表-11 共存疾患の特徴

1. 自己免疫性甲状腺疾患の共存頻度	
甲状腺機能亢進症	14/1.572 = 0.89 %
甲状腺機能低下症	3/1.572 = 0.19 %
リンパ球性甲状腺炎	16/1.572 = 1.02 %
	33/1.572 = 2.10 %
2. 中枢神経系疾患の共存頻度 55/1.572 = 3.50 %	
3. 自己免疫性疾患の共存頻度	
甲状腺疾患	33
リウマチ様関節炎	2
悪性貧血	1
	36/1.572 = 2.29 %

表-12 自己抗体出現率

自己抗体の種類	男	女	計
サイログロブリン血球凝集抗体	6/142 (4.2 %)	14/203 (6.9 %)	20/345 (5.8 %)
マイクロゾーム血球凝集抗体	14/142 (9.9)	43/202 (21.3)	57/344 (16.6)
抗核抗体	1/78 (1.3)	5/114 (4.4)	6/192 (3.1)
抗-DNA抗体	2/60 (3.3)	2/89 (2.2)	4/149 (2.7)
抗副腎抗体	0/2 (0)	0/4 (0)	0/6 (0)
抗胃壁細胞抗体	1/19 (5.3)	7/36 (19.4)	8/55 (14.5)
膵島細胞抗体 (ICA)	3/25 (12.0)	9/92 (9.8)	12/117 (10.3)
膵島細胞膜抗体 (ICSA)	9/13 (69.2)	10/20 (50.0)	19/33 (57.6)

表-13 網膜症出現率 (年齢, 性との関係)

年齢	男	女	計
≤ 6歳	0/79 (0 %)	1/94 (1.1 %)	1/173 (0.6 %)
7~12	2/199 (1.0)	9/285 (3.2)	11/484 (2.3)
13~16	9/156 (5.8)	25/256 (9.8)	34/412 (8.3)
17~20	23/92 (25.0)	27/134 (20.1)	50/226 (22.1)
21~25	22/43 (51.2)	21/56 (37.5)	43/99 (43.4)
≥ 26	11/14 (78.6)	20/28 (71.4)	31/42 (73.8)
計	67/583 (11.5)	103/853 (12.1)	170/1,436 (11.8)

表-14 網膜症出現率 (診断年齢, 罹病年数との関係)

診断年齢	罹病後の経過年数				計
	0~2年	3~5年	6~11年	≥12年	
0~3歳	0/75 (0 %)	0/66 (0 %)	7/78 (9.0 %)	3/16 (18.8 %)	10/235 (4.3 %)
4~6	1/107 (0.9)	1/82 (1.2)	9/71 (12.7)	8/22 (36.4)	19/282 (6.7)
7~9	2/112 (1.8)	4/90 (4.4)	18/87 (20.7)	7/16 (43.8)	31/305 (10.2)
10~12	1/138 (0.7)	11/107 (10.3)	17/75 (22.7)	9/15 (60.0)	38/335 (11.3)
13~18	12/125 (9.6)	10/62 (16.1)	32/70 (45.7)	18/22 (81.8)	72/279 (25.8)
計	16/557 (2.9)	26/407 (6.4)	83/381 (21.8)	45/91 (49.5)	170/1,436 (11.8)

表-15 網膜症出現率（年齢，罹病年数との関係）

年 齢	罹病後の経過年数				計
	0～5年	6～10年	11～15年	≥16年	
≤6歳	1/171 (0.6 %)	0/2 (0 %)			1/173 (0.6 %)
7～12	7/395 (1.8)	4/89 (4.5)			11/484 (2.3)
13～16	15/280 (5.4)	14/111 (12.6)	5/21 (23.8 %)		34/412 (8.3)
17～20	16/101 (15.8)	21/88 (23.9)	13/35 (37.1)	0/2 (0 %)	50/226 (22.1)
21～25	3/10 (30.0)	25/58 (43.1)	11/24 (45.8)	4/7 (57.1)	43/99 (43.4)
≥26		3/8 (37.5)	10/12 (83.3)	18/22 (81.8)	31/42 (73.8)
計	42/957 (4.4)	67/356 (18.8)	39/92 (42.4)	22/31 (71.0)	170/1,436 (11.8)

表-16 腎症出現率（年齢，性との関係）

年 齢	男	女	計
≤6歳	0/73 (0 %)	0/97 (0 %)	0/170 (0 %)
7～12	0/199 (0)	0/271 (0)	0/470 (0)
13～16	2/152 (1.3)	2/249 (0.8)	4/401 (1.0)
17～20	3/89 (3.4)	8/138 (5.8)	11/227 (4.8)
21～25	2/33 (6.1)	14/61 (23.0)	16/94 (17.0)
≥26	15/27 (55.5)	15/44 (34.1)	30/71 (42.3)
計	22/573 (3.8)	39/860 (4.5)	61/1,433 (4.3)

表-17 腎症出現率（年齢，罹病年数との関係）

年 齢	罹病後の経過年数				計
	0～5年	6～10年	11～15年	≥16年	
≤6歳	0/170 (0 %)				0/170 (0 %)
7～12	0/393 (0)	0/76 (0 %)	0/1 (0 %)		0/470 (0)
13～16	1/271 (0.4)	2/110 (1.8)	1/20 (5.0)		4/401 (1.0)
17～20	5/98 (5.1)	5/86 (5.8)	1/40 (2.5)	0/3 (0 %)	11/227 (4.8)
21～25	0/9 (0)	7/52 (13.5)	7/27 (25.9)	2/6 (33.3)	16/94 (17.0)
≥26		4/8 (50.0)	12/24 (50.0)	14/39 (35.9)	30/71 (42.3)
計	6/941 (0.6)	18/332 (5.4)	21/112 (18.8)	16/48 (33.3)	61/1,433 (4.3)

表-18 白内障出現率（年齢，性との関係）

年 齢	男	女	計
≤6歳	4/73 (5.5 %)	5/86 (5.8 %)	9/159 (5.7 %)
7～12	4/200 (2.0)	17/281 (6.0)	21/481 (4.4)
13～16	14/166 (8.4)	26/250 (10.4)	40/416 (9.6)
17～20	4/85 (4.7)	15/127 (11.8)	19/212 (9.0)
21～25	12/40 (30.0)	15/59 (25.4)	27/99 (27.3)
≥26	6/16 (37.5)	11/30 (36.7)	17/46 (37.0)
計	44/580 (7.6)	89/833 (10.7)	133/1,413 (9.4)

表-19 白内障出現率（年齢、罹病年数との関係）

年 齢	罹病後の経過年数				計
	0～5年	6～10年	11～15年	≥16年	
≤6歳	9/159 (5.7%)				9/159 (5.7%)
7～12	19/405 (4.7)	2/76 (2.6%)			21/481 (4.4)
13～16	31/288 (10.8)	8/109 (7.3)	1/19 (5.3%)		40/416 (9.6)
17～20	9/93 (9.7)	8/83 (9.6)	2/33 (6.1)	0/3 (0 %)	19/212 (9.0)
21～25	3/12 (25.0)	19/56 (33.9)	5/25 (20.0)	0/6 (0)	27/99 (27.3)
≥26		2/4 (50.0)	6/16 (37.5)	9/26 (34.6)	17/46 (37.0)
計	71/957 (7.4)	39/328 (11.9)	14/93 (15.2)	9/35 (25.7)	133/1,413 (9.4)

表-20 糖尿病性神経症の出現率（年齢、性との関係）

年 齢	男	女	計
≤6歳	0/80 (0 %)	0/94 (0 %)	0/174 (0 %)
7～12	2/179 (1.1)	5/275 (1.8)	7/454 (1.5)
13～16	2/145 (1.4)	13/245 (5.3)	15/390 (3.8)
17～20	8/89 (9.0)	13/131 (9.9)	21/220 (9.5)
21～25	6/34 (17.6)	16/58 (27.6)	22/92 (23.9)
≥26	14/22 (63.6)	15/38 (39.5)	29/60 (48.3)
計	32/549 (5.8)	62/841 (7.4)	94/1,390 (6.8)

表-21 糖尿病性神経症の症状（94/1,390例）

し び れ	37 症例	血管性浮腫	1 症例
電 撃 痛	6	排 尿 障 害	10
知 覚 麻 痺	13	皮 膚 潰 瘍	2
起立性低血圧	23	腱反射消失	20
慢性便秘	13	てんかん	1
慢性下痢	7	半身麻痺	2
腹部膨満	3	脳波異常	11
発汗異常	8		

表-22 死亡とその原因（27/1,572 = 1.7%）

原 因	例数	死 亡 年 齢 (歳)
糖尿病性昏睡	13	1, 4, 5, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 12, 13, 14, 16
感 染	4	2, 21, 22, 23
腎 不 全	3	20, 28, 22, 23
自 殺	2	18, 26
低 血 糖	1	19
脳 出 血	1	34
突 然 死	1	10
先天性心疾患	1	2
	1	6

表-23 18歳以下で発症したインスリン依存型糖尿病の長期予後
(1955年以前に出生した症例90例の調査)

調 査 項 目	男	女
症 例 数	34 例	56 例
調査時の年齢(歳)	31.0 ± 4.5 (25~46)	29.0 ± 3.4 (25~37)
診断年齢 (歳)	14.1 ± 3.2 (5~18)	12.8 ± 3.9 (1~18)
罹病年数 (年)	16.7 ± 4.5 (10~26)	15.8 ± 4.5 (8~29)
死 亡	2例 (脳出血: 1 自殺: 1)	5例 (腎不全: 3 肺炎: 1 自殺: 1)
網膜症(+)	30例 (88%)	41例 (71%)
増殖性のもの	14" (41")	22" (39")
白内障(+)	17" (50")	30" (54")
視 力 {盲	8" (24")	4" (7")
{高度障害	11" (32")	12" (21")
腎 症(+)	20" (59")	24" (43")
{窒素血症	11" (32")	15" (27")
{透析中	5" (15")	1" (2")
神経合併症(+)	18" (53")	24" (43")
高 血 圧(+)	8" (24")	10" (18")
既 婚(30歳以上のみ)	8/21" (38")	17/25" (68")
生児出産		11/17" (65")
失 職(30歳以上のみ)	6/21" (29")	

表-24 インスリン療法(毎日の注射回数)

年 齢	症例数	1 回	2 回	3 回	4 回	記載なし
0~2歳	21	17 (81%)	2 (9%)	0	0	2
3~6	160	134 (84)	23 (14)	1	0	2
7~10	296	225 (76)	64 (22)	2	0	5
11~14	384	290 (76)	89 (23)	1	0	4
15~20	404	245 (60)	154 (38)	3	1	4
≥21	133	69 (52)	59 (44)	3	0	2
計	1,401	980 (70)	391 (28)	10 (0.7%)	1	19

表-25 インスリン療法(毎日使用するインスリン製剤の種類)

年 齢	症例数	1 種類	2 種類	3 種類	記載なし
0~2歳	21	15 (71%)	5 (24%)	0	1
3~6	160	129 (81)	19 (12)	0	12
7~10	296	239 (81)	42 (14)	4	11
11~14	384	265 (69)	87 (23)	4	28
15~16	404	288 (71)	90 (22)	6	23
≥21	133	97 (73)	28 (21)	0	8
計	1,401	1,033 (74)	271 (19)	14 (1%)	83

表-26 インスリン療法 (インスリン用量, 年齢と性別) (1,399例)

年 齢	男		女	
	症例数	インスリン用量 (U/day)	症例数	インスリン用量 (U/day)
0 歳	0		1	4.0
1~2	9	11.6 ± 4.1 (6~18)	11	9.1 ± 4.2 (3~5)
3~4	26	12.3 ± 4.8 (5~22)	32	11.6 ± 4.8 (2~20)
5~6	43	13.8 ± 6.2 (1~32)	57	15.6 ± 7.3 (2~44)
7~8	52	18.9 ± 7.4 (6~40)	92	17.7 ± 7.5 (4~40)
9~10	63	22.2 ± 9.8 (6~40)	89	26.9 ± 11.1 (5~66)
11~12	77	29.6 ± 14.3 (4~76)	94	32.0 ± 16.1 (2~74)
13~14	75	38.0 ± 17.1 (4~80)	138	44.9 ± 19.3 (2~120)
15~16	70	45.8 ± 18.9 (12~100)	104	49.4 ± 21.7 (8~124)
17~18	57	46.7 ± 22.3 (10~104)	84	54.5 ± 24.1 (6~138)
19~20	23	57.4 ± 33.9 (16~120)	69	56.1 ± 21.9 (20~102)
21~25	26	45.4 ± 21.9 (12~104)	45	39.4 ± 16.2 (2~90)
≥26	28	33.0 ± 15.1 (4~78)	34	28.6 ± 12.8 (6~56)

括弧内は Range

表-27 コントロール規準として用いられている指標 (1,447例)

指 標	使用している症例	%
尿糖半定量	1,292例	89.3%
1日1回	141	9.7
2回	136	9.4
3回	312	21.6
4回	660	45.6
その他	43	3.0
24時間尿糖定量	684	47.3
Hb-A-I測定	650	44.9
Hb-A1c測定	257	17.8
血糖自宅測定	240	16.6

表-28 月別発病状態

発病年齢	症例数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	不明
0~3歳	257	20	21	16	27	15	20	19	17	26	27	20	18	11
4~7	402	31	33	43	31	33	30	26	21	25	28	36	42	23
8~11	453	56	47	38	36	34	37	18	32	38	24	29	31	33
12~15	329	21	34	31	36	24	35	12	16	16	17	25	25	37
16~18	79	4	6	4	5	3	5	7	6	4	3	5	6	18
不明年齢	6		2		1	1	1				1			
計	1,523	132	143	132	136	110	128	82	92	109	100	115	122	122

図1 1962年以前に出生したものに限定した診断年分布

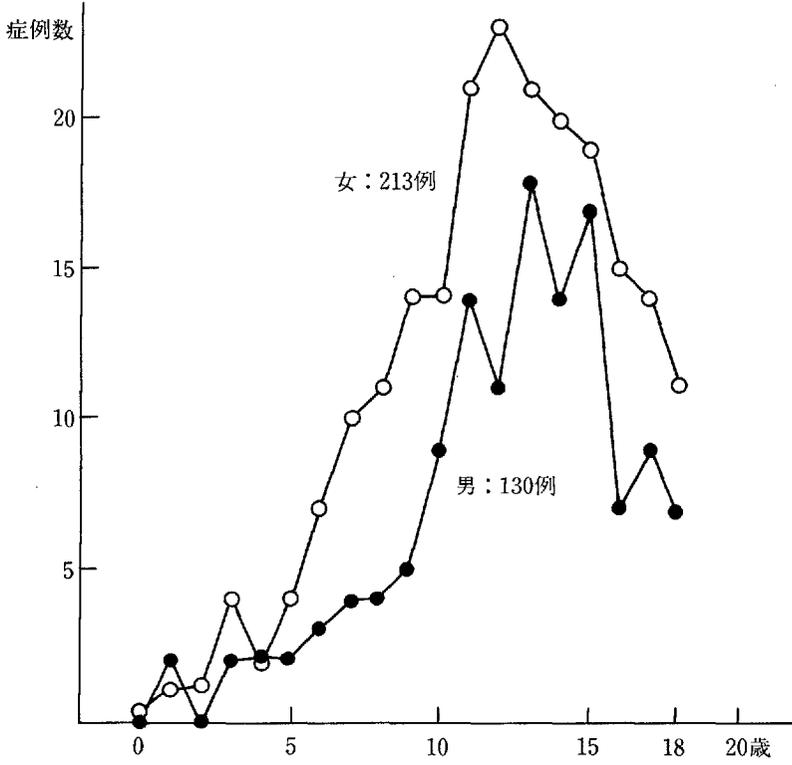


図2 図1を累積百分比曲線として表現したもの

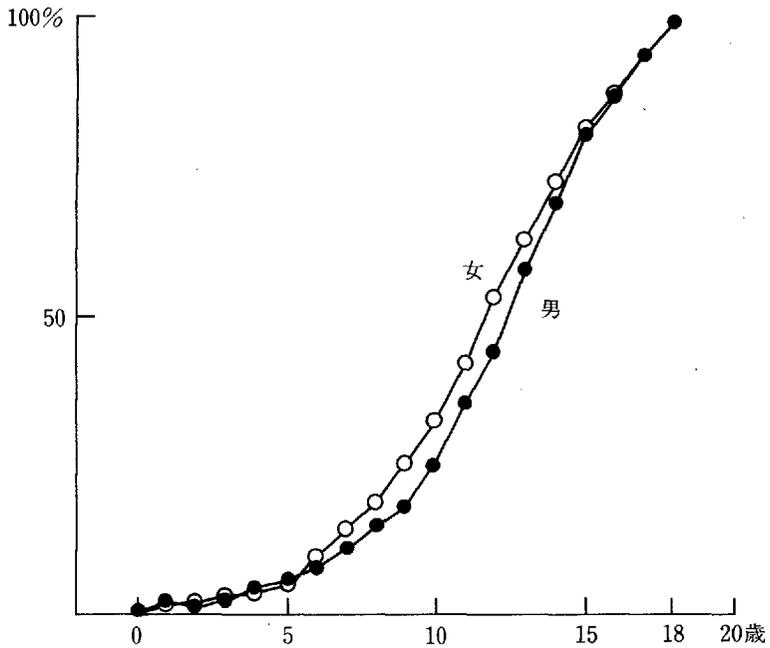
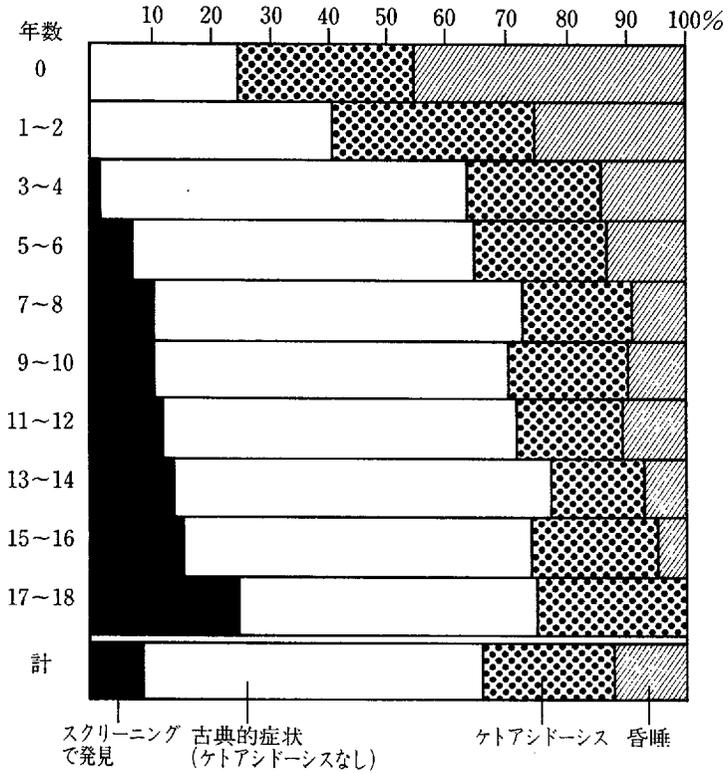
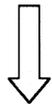


図3 診断時における臨床像と年齢





検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



本年度は全国医療施設から 123 項目にわたる調査個人票を収集し解折した。18 歳以下で発症した若年型(インスリン依存型)糖尿病で昭和 40 年以降に診療した症例の調査個人票 1,572 例分が 254 施設より寄せられた。